



2018年 第9回
 高校生の

建築甲子園

地域のくらしーリノベーションの可能性

主催 公益社団法人 日本建築士会連合会、都道府県建築士会

後援 公益社団法人 全国工業高等学校長協会、国土交通省

- 審査委員長
 片山和俊
 (東京芸術大学名誉教授)
- 審査員
 遠藤孝司
 (教育・事業本委員会委員長)
 森崎輝行
 (まちづくり委員会委員長)
 小野全子
 (女性委員会委員長)
 川嶋和之
 (青年委員会委員長)

審査総評

今回は様々な変更があった。リノベーションを加えたテーマ、2次に亘る審査方法、ベスト8校による映像プレゼンテーション提出など。その影響で提出時期が約1ヶ月早くなり、参加校の日程のやりくりや負担も増えたように思われる。変更は良かれと思つての試みであったが、全て良かったどうかはこれから検証し来年に備える必要があるだろう。

また選考について第1次は一般的な方法で、第2次は甲子園らしさを残したトーナメント方式でと予定していたが、映像プレゼンを見て2次も一般的な方法で絞っていくがよいと判断した。好敵手がぶつかり、負けると2度と浮かび上がれないトーナメント方式は、8校と少ない場合には運不運の影響が結果に出過ぎると思われた。やはり横並びに審査し、回数を重ねて絞って行く一般的な方法による方が間違いない。急遽変更して進めたが、結果としては良かったと思われる。

第1次では、はじめに全員で作品全体を見ながら意見を交わし、各審査員が選んだ20校の得点を集計した。その結果から得点の多い順に決定し、徐々に絞って選定したが、その過程で各委員が選定理由を述べて合意を目指した。合意に達しない場合には多数決とした。その結果がベスト8と次点1校である。

第2次では、8校より提出された映像プレゼンテーションを全員で見た後、図面パネルと対照しつつ各委員の講評を交え3回に亘って絞り込んだ。最後は残った上位3校を対象に多数決を取り、その結果を委員全員で確認・合意して受賞を決定した。

思い返すと今年は審査が難しかった。提出作品が、いずれも力作で粒ぞろいであったことにもよるが、大きな傾向として建築を対象としたリノベーションと地域を対象としたエリアリノベーションの2つがあったことが判断を複雑にした。前者がハード面での試みであるのに対して、後者は運動的な側面が強いソフト面からのアプローチが有効である。見方を変えれば、都市と地方の置かれた状況差が

現れたようでもあった。都市ではハードな提案が未だに可能だが、地方ではハードもだが、人口減少を食い止める活性化を促すために絞る知恵や仕組み、ソフトの比重が高い。縮小する時代には共に重要だが、どちらかを選定するとなると甲乙つけがたい。

ベスト8の中では前者が優勢で、その候補として青森工業高等学校と明石工業高等専門学校が残りに、特異な歴史と実現したら面白いと思わせる空間を提案した後者が優勝となった。地の利が味方したとも言える。一方準優勝となった江津工業高等学校は、映像でなければ伝えられない運動の広がり特徴があった。過疎の町これから目指す方向が、関係人口を増やすこと、そのためには制作者の力もさることながら、多くの関係者の町への思いを喚起し、協力体制を築いていくことにあるという主張と展開が評価に繋がった。さらにソフトとハード両面を合わせも緻密で優れた表現の天竜高等学校も惜しかったし、農村の過疎と正面から取組んだ石川工業高等専門学校と日向工業高等学校の真摯な姿勢も捨てがたい。判断が難しかったのが坂出工業高等学校だ。近代建築遺産に取組んだ意欲は買えるが、視点と解決策が多岐に亘り、近代建築遺産の何を守り受継ぐかという肝心の焦点がボケてしまったのは残念であった。最後に町ぐるみを土木的に解いた伊勢工業高等学校は、図面で読み切れなかった内容を映像で補完できたことが評価を高めた。提案の独自性を認め審査委員長特別賞とした。

最後に、今回の審査に取り入れた映像プレゼンテーションは良かったと思われる。スペースに限りがある提出図では、アレもコレもと肝心の図が小さくなり、力点がボケてしまう傾向にあるのに対して、限られた時間の映像プレゼンでは主張がはっきりしていた。作業量を増やすことにはなったが、若い諸君がこうした表現力に長けていることも予期せぬ収穫であった。

(建築甲子園審査委員長 片山和俊)



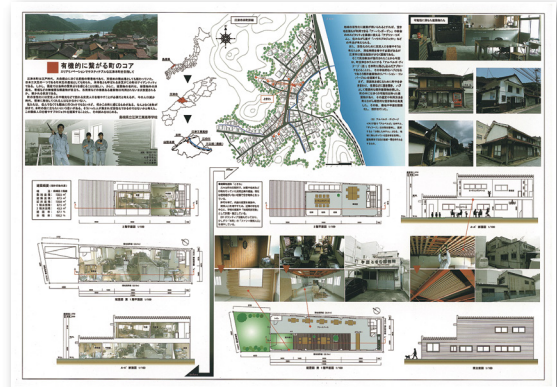
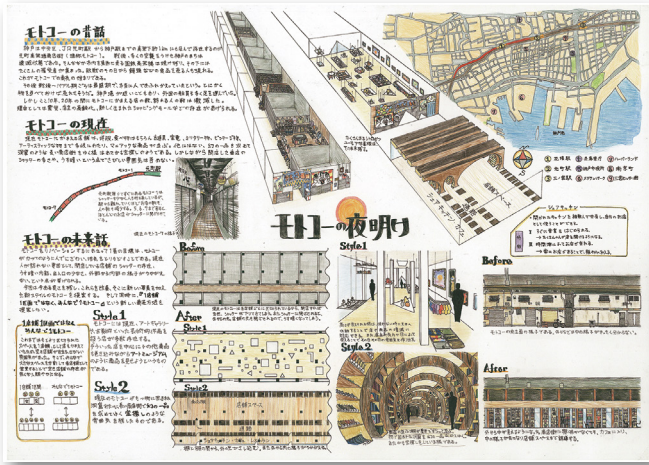
明石工業高等専門学校
モトコーの夜明け



まちづくり委員長特別賞

島根県立江津工業高等学校

有機的に繋がる町のコア
～エリアリノベーションで
サスティナブルな江津本町を目指して～



BEST 8・青年委員長特別賞

高校名	応募作品タイトル
青森県立青森工業高等学校	AAA (All Aomori) ～点から線、線から面へと未来に繋がる絆～

BEST 8・教育・事業委員長特別賞

高校名	応募作品タイトル
静岡県立天竜高等学校	「電灯に集う今昔物語」電灯に火が灯る 常夜灯として目印になり、集う人々を優しく照らす そういう光景も今は昔…

BEST 8・審査委員長特別賞

高校名	応募作品タイトル
三重県立伊勢工業高等学校	町の景色 擁壁をリノベーションする

BEST 8・女性委員長特別賞

高校名	応募作品タイトル
石川工業高等専門学校	この地で生きてゆく

BEST 8・入賞

高校名	応募作品タイトル
香川県立坂出工業高等学校	前を向いて遺産をみる
宮崎県立日向工業高等学校	語り継がれる風景 ～倉からランドスケープへ～

奨励賞

高校名	応募作品タイトル	高校名	応募作品タイトル
仙台高等専門学校	交流をもちたす空間へ	奈良県立奈良朱雀高等学校	ラフォーレ 柳生の里 ～緑と食と これからと～
秋田県立大曲工業高等学校	自然発生的アニマルセラピー交流館	和歌山県立和歌山工業高等学校	商店から始まる「新」機一転なまちづくり
山形県立山形工業高等学校	山寺駅前から始まる人・まち・歴史の物語	岡山県立津山工業高等学校	不死町～旧出雲街道の町屋 リノベーション計画～
栃木県立宇都宮工業高等学校	蔵ねこ～保護猫と人との架け橋 大谷石とともに～	広島県立福山工業高等学校	鞆(共)につなぐ。～可能性にあふれた町で～ 子どもの将来・大人の将来・鞆の浦の未来～
群馬県立桐生工業高等学校	お散歩映画館 Film City KIRYU	山口県立柳井商工高等学校	サテライトオフィスで人口増加
埼玉県立春日部工業高等学校	高齢者の楽園～趣味と暮らしの共遊～	徳島県立徳島科学技術高等学校	Dek Tok
川崎市立川崎総合科学高等学校	集楽	愛媛県立松山工業高等学校	故郷 夕凧のまち
山梨県立甲府工業高等学校	温き杜 ～空き家から暮らし継ぐ温き杜へ～	有明工業高等専門学校	地域の人の、地域の人による、地域の人のためのステージ
岐阜工業高等専門学校	毎日銭湯 消防署の役目を終え、もう一度地域を守る建物に生まれ変わる	佐賀県立唐津工業高等学校	祈りの島「MADARA」～若年者定住計画～
富山県立富山工業高等学校	にぎわいのマチ時間 ～木賃アパートから小さな地域の再生へ～	長崎県立大村工業高等学校	シェアターミナル
福井県立武生工業高等学校	ひまわり食堂	熊本県立球磨工業高等学校	田舎に泊まらん?
滋賀県立彦根工業高等学校	三方笑顔	大分県立大分工業高等学校	Hobby School～創作と道楽の空間～
京都府立宮津高等学校	Come Back Miyazu Foods	鹿児島県立薩南工業高等学校	つなぎ、つながる、地域の思い

※高校生の建築甲子園は、公益社団法人全国工業高等学校長協会のジュニアマイスター制度の認定プログラムです。

出場校の全作品と審査評は(公社)日本建築士会連合会のホームページでご覧いただけます。